

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400552		
法人名	社会福祉法人 知多学園		
事業所名	板山ホームらく楽		
所在地	愛知県半田市権の木町4丁目13-2		
自己評価作成日	平成22年11月17日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aichi-fukushi.or.jp/kai/gokouhyou/index.html">http://www.aichi-fukushi.or.jp/kai/gokouhyou/index.html</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町2丁目6-5 かえでビル2F		
訪問調査日	平成22年11月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成22年9月1日に新築移転し、定員が18名となる。家庭的な雰囲気ですべての利用者が生活できるように支援をしている。地域との結び付けを積極的に行い、行事・運営推進会議を通じて、とけ込めるようにしている。レクリエーションも午前・午後行い、利用者のADLの維持に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成22年9月に新築移転し、1ユニットから2ユニットになった。田園地帯の高台に位置し、広い敷地に木の塀に囲まれ木造平屋建が静かに立っている。建物周りには庭木が植えられその内側にはウッドデッキが設けられている。明るい自然に囲まれた環境で利用者は家庭的な雰囲気の中でのんびりと時を過ごしている。運営推進会議体制が整いそこで出された意見・要望等はサービス向上に反映されており、利用者(家族)からも良い評価を得ている。毎月発行される「板山ホームらく楽」のお便りは、一人ひとりの利用者の家族に向けて生活の様子や笑顔の写真がカラー印刷されており更には、2ヶ月間の行事予定が載せられている。今後の課題として、施設としての理念の確立、地域との連携を深めると共に、施設をしなくても良い環境作りへの検討を期待したい。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の「地域と自然に接しながらの生活の支援」の理念をグループホームに置き換えて、地域住民との交流も含めて実践している。	法人全体の理念が玄関に掲げてある。今後の課題として、職員皆で事業所独自の理念を創っていくを考えている。	法人全体の理念を踏まえながら、事業所独自の理念を皆で作し、周知・共有を図りながら日々のケアで実践されることを望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭等の地域への催しものにも利用者と共に参加している。	文化祭、敬老会、保育園の園庭開放等地域の催しに利用者と共に参加したり、中学校の吹奏学部の訪問を受けたりしている。本年9月に新築移転してきたばかりであり、町内会加入等はこれからの予定であるが、地域との結びつきを積極的に行ないたいと意欲を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所相談等にて、認知症の方や御家族の相談に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二月に一回、運営推進会議を開催して、そこで出された意見を反映させている。	2ヶ月に1度、市の担当者・地区長・民生委員・家族・法人役員・職員等が参加して開催をしている。本年度は新築移転等で多少予定のずれはあるが、年6回の開催は予定している。出された意見はサービス向上に反映させているが、更に内容の充実に向けての意欲が見みられる。	新しい地域での運営推進会議であり、課題も多いと思われるが、外部評価の活用も期待したい。また、参加者がより意見を表出しやすい工夫も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、連絡を取り合ったり、アドバイスをうけている。	運営推進会議、在宅ケア推進地区連絡協議会、月1回の事跡報告、申請代行等で連絡を取り合いアドバイスも受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を通じて、職員の意識付けを図り、行っている。また、新築により、ウッドデッキを利用し施設をしないようにしている。	内部研修を通じて身体拘束に関する意識付けを行なっている。新築施設で建物周りに広くウッドデッキを設け閉塞感のないすばらしい環境が作られている。しかし今のところ施設がされている。	心身の拘束の意味を理解し、新環境での利用者の反応を確かめながら、施設しない方法を職員全員で話し合い、工夫していくことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を通じて、職員の意識付けを図り、行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、市主催の交流会に参加し、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、または、介護保険制度の改正時に、説明を行い、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に関しては、二月に一回、運営推進会議を開催して、そこで出された意見を反映させている。利用者については、各担当職員にニーズの収集をし、実現に努力している。	家族に対しては外部者が参加している運営推進会議で意見を聞く機会を設け意見を反映させたり、ご意見箱の検討もしている。利用者については、日々のケアの中でニーズを引き出し要望に添えるように努力している。家族向けのホーム便りを定期的に発行している。	運営推進会議等の会議の場でも意見・要望が出やすい、言いやすい環境の工夫が望まれる。家族(利用者)アンケートの実施も考慮中のとのこと。成果を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングを通じて、意見を反映している。	ミーティングや勉強会を通じて、また年2回の人事考課等で意見や提案を聞く機会を設け反映させている。2ユニットになり職員も利用者も増えたため、ユニットリーダー制を考えたり、試行錯誤しながら前向きに努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、人事考課表を用いて、職員個々の状況を把握し、評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度事業計画にも、目標として掲げ実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、個人記録表に記載し、各職員に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、個人記録表に記載し、各職員に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、御家族の家庭環境を考慮し、他事業所と連絡を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的な雰囲気や生活を大切に、洗濯干し・清掃・後片付けなどを、共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加・ご協力をお願いして、家族と、利用者の絆が断たれないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からの要望により、柔軟に外出できる体制を維持している。	利用者(家族)からの要望による外出は柔軟に対応している。デイサービスを馴染みの場所としている利用者には通所援助をしている。	限られた利用者からのみの援助になっていないか考慮を要する。地域に出向いて馴染みの場所を作ったり、作品を利用した絵手紙等の工夫も期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、食事場所や、レクリエーションの場所・内容を工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の、様子を尋ねたりして、相談を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時間を、本人の要望により変更する等して対応している。	日々のかかわりの中で希望や意向の把握に努めている。例えば、本人の要望による入浴時間の変更。食事内容も嫌いなものがあれば代替りのものを出したり、ヨーグルト等希望があれば家族と相談の上提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人記録表や、その後の家族からの情報にて、実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌などで、状況を把握し、異常があれば、申し送るなどして、観察・対応をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回、カンファレンスを行って、職員同士の意見を集約し、介護計画に反映している。	利用者・家族の希望や意向をふまえ、毎月のカンファレンスで職員同士の意見を集約し介護計画に反映させている。状況変化については毎日のミーティングで対応している。3ヵ月毎のモニタリングとアセスメントに基づいた計画見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌などで、状況を把握し、異常があれば、申し送るなどして、観察・対応をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	水分・食事等、要望に応じて本人に支援をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園への訪問、地域の催し物に積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望をかかりつけ医に往診時に報告し、指示を受けている。	受診は本人や家族の希望を大切にし、従来の医療機関を利用する場合は家族の協力を得ている。事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、本人と家族の同意と納得を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員と24時間、連絡がとれる体制を敷き、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、病院へ訪問し、病院職員と今後についての話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「事前指定書」へ重度化した場合に備え、必要時に相談をしている。	重度化した場合や終末期の対応についての希望を入所時に「事前指定書」に記入していただき、それに沿った対応をとっている。年1回はその内容について意思の再確認を行なっていく方針である。希望があれば終末期の対応も視野に入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の内部研修で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や火災を想定した避難訓練を定期的に行っている。	消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行なっている。近日中に新施設になって初めての非難訓練を行なう。地域からも4名の参加を予定している。スプリンクラー設備・消火器や避難経路の確保は出来ている。非常用食料は現在準備中。避難訓練の都度点検整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどに注意し、尊厳を損なわないようにしている。	「一人ひとりの尊厳とプライバシー確保」についてのマニュアルを作成し、家族が聞いても不快にならない言葉かけを常時心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容等、本人に必要時に声かけし、対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の時間の変更等、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の家族と、連絡関係を維持し、本人の意向が、かなえられるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時を主に準備や、毎食後の片付け等を一緒におこなっている。	主に後片付けを、能力に応じて分担し行なっている。準備のほうは、時間がかかっても支障のない作業や、単純作業は職員が一緒に行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表等で摂取量を把握している。家族の要望にも対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所等で、口腔清拭を行っている。また、異常があれば、提携歯科に連絡し、往診をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、排泄パターンを把握し、援助を行っている。	排泄パターンを把握し、習慣やパターンに応じた個別の支援が行なわれている。3居室に1箇所トイレと洗面所があり、トイレのついでに手洗いうがい、又は手洗いのついでにトイレ誘導といった流れに沿った無理のない援助の工夫が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	家族の要望に応じ、排泄コントロールをおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を変更の希望を受けた場合、その要望に応じている。	週3回入浴は、時間の変更に応じたり、翌日に変更したりと要望に応じている。午後の入浴に変更したことと機械浴槽導入で入浴拒否が減り皮膚疾患が減少した。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の行動などを観察し、必要時に支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の管理や、服薬チェック表にて、誤薬が発生しないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前・午後のレクリエーションを通じて、喜びのある生活を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の訴えや、様子などで、戸外へ出て過ごせるように援助をしている。	ウッドデッキ利用で戸外で過ごせるよう援助しているが、外出支援は通院以外行なえていない現状がある。	ウッドデッキの効果的な利用もさることながら、日常的に事業所外で過ごせる工夫も期待したい。例えば、買い物同行や神社への散歩等。地域とのつながりも期待できる。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	申し出があった場合、日常生活物品を購入する等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の申し出にて、支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新築となり、開放的な空間と、自然採光をいかしている。	新築の施設であり開放的な空間と、自然採光を生かした木のぬくもりの感じられる。ウッドデッキの周りは様々な庭木が植えられており、居間や居室から眺められる緑は利用者が多くの時間を過ごす場所であり癒しの場となっている。職員と利用者の共同作品も和やかな雰囲気をかもし出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席と別に場所を用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものを居室へ持ち込み、自宅の雰囲気を得られるようにしている。	和式と洋式の居室があり、特に要望のなかった利用者には、個々の適正を見て配置をした。自宅で使用していたものを持ちこんだり、写真や作成した作品を飾ったり、居心地よく過ごせる工夫をしている利用者が居る反面、殺風景と感じられる居室も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等を設置し、転倒防止に努め、自立歩行が維持出来るようにしている。		